

## ☆実態及び課題

教科	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
国語	<p>自分の意見を2文程度で、発表することができるようになってきた。</p> <p>書くことについては、3文程度書くことができるようになってきたが、助詞「は」「を」「へ」や、濁音と半濁音、長音、拗音などの使い方に課題が残る児童もいる。</p> <p>文章の読解について、正しく読み取ることが難しい児童もいる。</p>	<p>自分の意見を積極的に発言できる児童が多い。一方で、みんなの前で発表することに抵抗のある児童もいる。「読むこと」においては、物語の読み取りで、登場人物の気持ちを考え、ノートに書いたり、発言したりすることができる児童が多い。「話すこと・聞くこと」においては、自分の意見は伝えられるが、友達の話最後まで聞くことができない児童がいる。また、「書くこと」においては、ノートや原稿用紙へ書くことやその使い方が身に付いていない児童がいる。</p> <p>【NRT】 「話すこと・聞くこと」は全国平均を上回っている。一方で、「書くこと」「読むこと」が全国平均を下回っている。特に、「はへを、句読点、片仮名の書き」「話の内容の大体をとらえる」「文章を読み感想などを伝え合う」「漢字の読み、言葉のまとめ」の正答率が低い傾向にある。</p>	<p>物語文や説明文の学習では、叙述を根拠に読み取ることができる児童が多い。一方で、叙述をもとに想像することが苦手な児童もいる。また、「話す・聞く」においては、自分の意見を伝えることができる児童が多いが、友達の意見を最後まで聞くことができない児童がいる。「書く」においては、書字が丁寧でない児童が多いため、細かなところで漢字を間違えてしまう児童が多い。</p> <p>【NRT】 全ての項目で全国平均を上回っている。一方で、漢字の読み書きと、重要な語や人物の行動をとらえることについては正答率が低い傾向にある。</p>	<p>物語文や説明文の学習では、叙述を基に筆者の考えを読み取ったり、そこから考えを広げたりすることができる児童が多い。一方で、自分の考えを言語化したり、文章にして書いたりすることに苦手意識を感じている児童も多い。また、文章を順序立てて書くことができず、作文に苦手意識を感じている児童も多い。</p> <p>【NRT】 全ての項目で全国平均を上回っているが、漢字の読み書きについては正答率が低い傾向にある。</p>	<p>物語や説明文の学習では、叙述を基に読み取ったり、筆者の意見に対する自分の考えを書いたりできる児童が多い。また、話し合いに意欲的に参加できる児童が多い。一方で、漢字の読み書きについては、既習した漢字を活用して、文章を書くことに苦手意識のある児童も多い。</p> <p>【NRT】 全ての項目で全国平均を上回っているが、漢字の読み書きについては正答率が低い傾向にある。</p> <p>【学力調査】目的に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して整理したり、自分の考えが伝わるように書いたりすることにつまづきが見られた。</p>	<p>物語や説明文の読み取りはよくできている。児童によって考えを表現する力に差があり、上手に考えを表現できる児童もいるが、考えをまとめることが難しい児童、発言や文章が文法上理解できていない児童もいる。</p> <p>話し合いでは、自分が言いたいことを優先するため、話の流れを無視した発言やまとまりのない意見が時々聞かれる。</p> <p>【NRT】 全ての項目で全国平均を上回っているが、話し合いの立場の把握や意見文の要約、古典の音読や漢字の書きの正答率が低い傾向にある。</p> <p>【学力調査】目的に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して整理したり、自分の考えが伝わるように書いたりすることにつまづきが見られた。</p>
社会			<p>文京区の町の様子の学習では、教科書や地図帳の資料を読み取り、交通や伝統ある建物について考えることができた。また、町の人々の仕事の学習では、見学に行ったり現地で活躍する人に質問をしたりしながら積極的に取り組む児童が多かった。一方で、学習したことや調べた内容をまとめることに課題をもっている児童が多い。</p>	<p>水道やごみの学習では、教科書やインターネットなどの資料から情報を読み取り、そこに関わる人びとの努力や工夫について考え、問題解決に繋げることができていた。一方で、読み取った内容から必要な情報を精選したり、それらの情報を自分の言葉でまとめたりしていくことに課題をもっている児童が多い。</p>	<p>どの児童もタブレットを活用して、様々な情報を収集し、自分なりの方法(ノート・ワード・パワーポイント)でまとめることができていた。一方で、情報過多となり、適切にまとめることができなかった児童もいた。また、まとめることだけに注力し、なぜそのような事象が起きているのか等の理由や根拠についてまで言及できない児童もいた。</p>	<p>教科書や資料集の想像図から、必要な情報を読み取ったり気付いたりする力が高まってきた。一方で、資料から自分の知りたい情報を適切に読み取ったりまとめることが苦手な児童が多い。自分が知りたい情報がどこに書いているのかを見つけられない児童もいる。</p>
算数	<p>半具体物であるブロックや、丸図で自分の考えを表し、計算することができる。</p> <p>文章問題の読み取りが難しい児童もいる。そのため、聞かれていることに答えることができないという課題が残る。</p> <p>自分の考えを、順序立てて説明する力を高めていく。</p>	<p>算数への学習意欲が高い児童が多い。1年生までの学習内容が定着している児童が比較的多い。一方で、かさや時刻でつまづいている児童が複数いる。</p> <p>【NRT】 「長さ、広さ、かさ」「時刻の読み方」以外の項目については、全国平均を上回っている。</p>	<p>2年生までの学習が定着している児童が多い。3年生の学習も、どの単元においても学習内容の定着度が高い。一方で、単元別のテストを見ると、学習内容の定着度の個人差が多いものもある。また、理解している児童の中にも、単位の書き忘れや計算ミスが見られることもある。</p>	<p>単元別テストを個別に見ると、学習内容が定着している児童とそうではない児童との差が大きい。特に、一億より大きい数や小数のしくみの定着に課題がある。また、理解していても単位の書き忘れをしている児童が多い。</p>	<p>図形では比較的ほとんどの児童が正確に作図をすることができる。</p> <p>数と計算では、小数のかけ算やわり算の基礎的な計算はできるが、文章問題になると立式ができない児童が多い。</p> <p>また、基礎的な知識はあるが、なぜそうなのか説明できない児童も多い。</p>	<p>問題を意欲的に解決しようとする児童が多い。問題から立式し、答えを求めると考えられる。一方で学年全体で公式は知っているものの、それに至るまでの過程を既習事項と関連付けて考えることに課題がある。基礎コースでは、基礎的基本的</p>

		る。数と計算領域と図形領域については、正答率が7、8割程度であり、定着している。一方で測定・データの活用領域では、他の領域と比べて正答率が低く、課題が見られた。	【NRT】 「長さ、かさ」以外の項目については、全国平均の正答率を上回っている。数と計算領域と図形領域については、正答率が8割程度であり、定着している。一方で「長さ、かさ」を含めた、測定・データの活用領域では、他の領域と比べて正答率が低く、課題が見られた。	【NRT】 どの領域においても全国平均の正答率を上回っている。正答率も高く、前学年までの内容をほぼ定着できていると考えられる。「二等辺三角形の説明」は、正答率が低い。図形の性質の理解に課題がある。	【NRT】 全ての項目で全国平均を上回っているが、割合・数の変わり方の正答率が低い傾向にある。	な計算や解法が身に付いていない児童もいる。 【NRT】 倍数の考えの適用、グラフの読み取り、速さの比較や立式、2つの円周の差の変化の項目で、正答率が学年全体で低い。学年全体で塾や自主学习などで知識はある(暗記)が、知識理解が浅いため思考する過程での活用が難しいことが分かった。 【学力調査】伴って変わる二つの数量を見出して、それらの関係に着目し、目的に応じて表や式に表す問題につまずきが見られた。
理科			問題に対して、自分なりの予想をもって、観察や実験を行っている児童が多い。特にエネルギー領域に高い関心を持ち、意欲的に学習に取り組む児童が多い。一方で、自然事象の体験から、学習問題を立てることや実験・観察の結果から考察を表現することが難しい児童が多くいる。	どの単元でも自分なりの予想をもち、実生活の経験を生かしながら、実験や観察を行っている。特に生き物や自然には高い関心を持ち、意欲的に学習を行っている。一方で、結果をもとに考察し、自分の考えを広げて、表現することが難しい児童も多くいる。	植物の実験や世話を意欲的に行っていた。変化の様子を逐一報告する児童もいた。一方で、植物の成長や成長条件に興味をもてない児童もいた。 実験結果を受けて自分なりの考えを表現できる児童がいる一方で、結果を踏まえて考察できない児童もいる。	実験や観察については、積極的に行う児童が多い。進んで取り組んだり、新しい疑問に対してさらに確かめようとしたりする児童がいる。 実験から結論までの考察の過程においてつまずく児童が見られる。知識として実験結果や結論を知っているが、実験から論理立てて結論を説明できる児童が少ない。
生活	五感を使って、植物の様子をじっくりと観察し、観察カードに絵や短い文章で表現することができる。	植物の世話や観察を意欲的に取り組む児童が多い。変化や特徴などの気付きを絵や文章等で表現することは多くの児童ができる。町探検では、自分の生活との関わりを考えながら学習に取り組んでいる児童が多く見られた。				
音楽	音楽を静かに聴く習慣が身に付いていて、音楽の特徴や変化を聴き取ることができる。そのため、めあてに沿った表現の工夫ができる。また、ペア学習やグループ活動も友達を思いやりながら協力して取り組んでいる。一方、自分の発想を元に行う音楽づくりの活動では、戸惑い、消極的になる場合がある。	歌唱やリズム打ちなど体を使って表現する活動に意欲的な児童が多い。鑑賞活動の拍の特徴を感じる学習では、自然と体が動き身体表現へとつながっている。一方で、友達の演奏した音を聴いて合わせることに苦手で、全体で合奏する時、音がそろわないことが多い。	表現活動を楽しみ取り組んでいる。また、新しい活動にも意欲的である。今年から始まったリコーダーの学習では、歌唱と息の使い方が異なることを認識し、工夫して表現できる。一方、集中できない時は、周りの音を聴かず、自分だけが心地よい声や音を出す傾向がある。	どの活動も意欲的に取り組んでいる。鑑賞活動においては、聴いて感じ取ったことを言葉で表すことができるようになった。一方、曲想に合った演奏や技能が必要となる活動では、消極的になる児童もいる。また、ペア活動やグループ活動に消極的な児童もいる。	音楽を集中して聴くようになり、強弱を工夫して歌ったり、友達の音を聴いて合わせて演奏する習慣が身に付いてきた。また、リコーダーの技能も高まり広い音域の楽曲を演奏できるようになった。一方、鑑賞活動では、楽曲全体を味わって聴き、文章にまとめることは難しい。	歌唱活動の三部合唱では、声が響き合う心地よさを感じながら取り組んでいた。また、ボイスパーカッションの活動では、ICTを活用しながら言葉とリズムを考え、自分たちが納得できる発表ができた。一方、器楽活動では、様々な楽器を体験させたいが、選択する楽器が固定している児童が多い。
図工	意欲的に取り組んでいる。活動の進め方を理解し、自分らしく表現できる児童が多い。作品作りに集中して長く取り組むことができる。道具の準備や片付けに課題がある。	どの題材も意欲的に取り組む児童が多い。新しい素材や技法に興味関心が高く、より良い物を作ろうと工夫する。一方で、授業に関係のないことをしたり、集中して取り組めなかったりする児童もいる。	どの題材も意欲的に取り組む児童が多い。新しい素材や道具にも敏感で、個々に何度も試したり、より良い物を作ろうと工夫したりして、様々な作品が見られ児童の刺激になっている。一方、敏感であるがゆえに、友達の作品に対して思ったことをすぐ発してしまう傾向がある。自他を大切に	真面目に、どの題材もめあてを意識しながら取り組む児童が多い。試行錯誤をしながらより高みを目指して努力するため、完成度の高い作品が多い。ごく一部で、友達の意見に流されて授業中ということを忘れ、クラス全体の制作する雰囲気や乱してしまうこともある。	ICT等使う道具が増え、どの題材にも高い関心と意欲で取り組む児童が多い。5年生では彫刻刀や電動鋸など危険な刃物の扱っても増えていくため、穏やかな気持ちで安全に気を付けて授業に取り組めるように指導していく。	題材の目標、各授業のめあてを自分なりに理解し、コツコツとまじめに取り組む、仕上げていく児童が多い。一方で、なかなか制作に集中できず、図工室内の道具に興味を惹かれてしまう児童も見られる。

			する声掛けが必要である。			
家庭					初めての調理や裁縫の学習に興味をもって取り組む児童が多い。やり方が分からない児童がいると、進んで教えている姿が多く見られた。自分の作業に集中する時間を増やすことが課題の児童が少なからずいる。	調理や裁縫など、実習的なものは興味をもって取り組むことができる。一方、講義が中心の授業になると、時々よい意見を言うものの、一緒に取り組むことのできない児童もいる。その子たちをどのように取り込んでいくかが課題である。
体育	走る・投げるなどの動きを取り入れた遊びの中で楽しく運動することができた。一方で、勝敗を受け入れて、友達と仲良く運動することが難しい児童もいる。	多くの児童が積極的に運動に取り組むことができている。できないことや苦手なことにも少しは挑戦しようとする意欲をもっている児童が多く見られる。一方で、勝敗を受け入れて、友達と仲良く運動をすることが難しい児童もいる。	意欲的に運動に取り組む児童が多い。運動に楽しく参加し、できないことや苦手なことにも前向きに挑戦しようとする児童が多い。一方で、勝ち負けのある運動については、勝ちへのこだわりを強くもつ児童が多く、ルールを守れなかったり、気持ちのコントロールができなかったりする児童もいる。	意欲的に学習に取り組む児童が多い。身体を動かすことが好きな児童が多く、どの単元でも積極的に準備をしたり、苦手なことにも挑戦したりする児童が多い。一方で、勝敗がある運動では、負けてしまった際に、気持ちのコントロールが必要な児童もいる。	多くの児童が意欲的に運動に取り組んでいる。リレーやマット運動では、教え合う場面が多く見られた。共に学び合い、高め合おうとする気持ちがある。一方で、積極的に学習に取り組めない児童、自身の課題に向き合えず、進んで課題解決を図れない児童がいる。	積極的に運動に取り組んでいる児童が多い。声を掛け合ったり、教え合ったりする様子も見られる。一方で、技術を高めたり技に挑戦したりすることではなく、体を動かすことだけに楽しさを感じている様子も見られる。練習に集中しすぎて集団で整列、集合に時間がかかったりすることもある。
道徳	学習課題に対して自分の考えをもち、積極的に発表することができる児童が増えてきた。また、友達の考えを聞くことで、自分の考えをもつことができるようになってきた児童もいる。一方で、学習で学んだことを生活に生かしていくことに関しては、課題がある。	内容を読み取り、深め、自分の考えをもつことができる児童が多い。また、友達の意見を聞くことで、自分の考えを深めることができた児童もいる。一方で、学習で学んだことを生かされずに授業内で完結してしまう児童もいる。	価値項目について、客観的な視点から正しい判断をすることはできるが、自分自身の生活に結び付けて、学んだことを生かすことができない児童もいる。	教材文を通して、「自分が主人公の立場だったらどうするか」という視点で考えることができている。また、自分の考えをもって、友達の考えと比べることもできている。一方で、学んだことを生活に生かすことができない児童もいる。	教科書の話をよく読み、登場人物の気持ちを考え、自分の考えをもてる児童が多い。一方で、学んだことを自分の生活と結び付けて考えることに苦手意識のある児童もいる。	問題に対して、客観的な「正しい」判断はできるが、自分自身を含まずに考えることが多い。自分の生活に結び付けられずに、考えに一貫性がなくなったり、消極的になったりすることがある。
外国語					チャンツを大きな声で歌い、その単元に必要なセンテンスや語彙を獲得できている児童が多い。また、どのアクティビティにも進んで取り組み、コミュニケーション能力を高めようとする児童が多くいる。その一方で、センテンスや語彙を理解できずに、アクティビティにおいて他者と十分に関われない児童がいる。	積極的に友達に声を掛けてペアで話したり、手を挙げて発言したりする児童が多く、英語を使ってコミュニケーションを図ることを楽しんでいる児童が多い。チャンツや歌も声を出して取り組み、暗記して会話の時に役立てている。一方でアルファベットの大きさ、小文字を区別することや丁寧に書くことに課題があったり、全体の場で発表することに抵抗感があったりする。

☆課題解決の視点・手立て ※取り組む内容 課:課題 学:学習形態 発:発問・指示・板書 教:教材の工夫

教科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	視点・手立て	評価・修正	視点・手立て	評価・修正	視点・手立て	評価・修正	視点・手立て	評価・修正	視点・手立て	評価・修正	視点・手立て	評価・修正
国語	<p>課児童が自ら積極的に取り組める言語活動や文を書く機会を多く設定することで、正しい文章の書き方を定着させる。教教科書に出てくる言葉について取り上げることで語彙を増やす。</p>	<p>課児童に身近な課題や視写する機会を設定したことで、文章の書き方を定着させることができた。教物語文に出てくる言葉の意味を一緒に考えたり、漢字の練習の際に出てきた単語について話をしたりすることで、少しずつ語彙を増やすことができた。</p>	<p>学「話すこと・聞くこと」では、話の聞き方や、話し合いの仕方の指導を丁寧に行う。学「書くこと」では、作文を書く機会を多く設け、書き方を身に付けさせる。学「読むこと」では、物語文や説明文の大体を捉えられるまで繰り返し音読をさせる。</p>	<p>学話し合いの仕方や話型を具体的に示したことで、話し合いができるようになった。学物語や日記を書く活動を通して、主語・述語を意識して書ける児童が増えてきた。学授業や宿題等で音読を繰り返す行い、物語文や説明文の大体を捉えることができた。</p>	<p>教「漢字の読み書き」では、漢字練習ノートを活用し、毎日漢字を書く機会を作ったり、朝学習に漢字の復習をしたりして確実に定着できるようにする。学物語文の学習では、文章を読んで感じたことを書いて表現したり、友達に伝えたりして、叙述をもとに想像する力が付くようになる。</p>	<p>教児童が漢字の小テストの結果をもとに、漢字を覚えるために練習をしたり、小テストとは別に漢字を書く機会を設けたことで、以前よりも漢字テストの得点率が上がった。学物語文を読むで感じたことを友達と共有する機会を増やしたことで、少しずつ想像しながら読むことができるようになってきた。</p>	<p>課「漢字の読み書き」課宿題や朝学習の時間を通して、漢字の定着をさせることができた。学単元終わりの言語活動で長い文章から必要な情報を抜き出し、要約する学習活動を多くとった。自分の力で文章を理解し読み進める力を向上させることができた。</p>	<p>教漢字の読み書きでは、漢字テストを通して間違えの多い漢字の復習などをして定着できるようにする。発なるべく漢字を使って作文や意見文が書けるようにその都度声かけをしていく。また、分からない漢字は漢字辞典で調べよう指導する。</p>	<p>発漢字テストの練習を繰り返したることにより、漢字の定着を図ることができた。また、漢字が定着してきたことにより、その漢字を活用して文章を書くことができるようになった。</p>	<p>学書く、話す等、表現する活動の時間を十分に確保する。つまり、活発な児童には、活動の中で個別に支援していく。学様々な形の意見交流の時間を確保し、より多くの考えに触れ合えるようにする。学聞く側、話す側と順番を決めたり、相手の意見を説明したりする等、それぞれの意見をきちんと把握できるようにする。</p>	<p>学表現の経験を積んだことで、様々な形、自分の得意な形で表現する力を付けることができた。個別指導により、つまり、いろいろな形の意見交流の時間を確保し、より多くの考えに触れ合えるようにする。学身に付けていくことができた。学多くの考えに触れ合う中で、相手の意見をきちんと把握し、理解できるようになってきた。</p>	
社会					<p>発学習のまとめ方の例を提示して、情報の整理の仕方や表現の仕方を伝えていく。教児童が調べたことなどを、分かりやすくまとめることができるように、ワークシートの内容を工夫する。学学習のまとめの段階などで話し合い活動を取り入れることで、自分が学習したことを要約して表現することができるようにする。</p>	<p>発まとめ方を提示することで、初めての社会をどのように学習すればいいのか理解する児童が増えた。教まとめやすいワークシートの作成だけでなく、副読本の資料をコピーして気付きや比較がしやすいようにした。学グループでの話し合い活動や動画を視聴して</p>	<p>発学習のまとめ方が上手な児童のノートを紹介したり、まとめ方の例を示したりすることで、情報整理の仕方や表し方を伝えていく。学学習のまとめの段階などで話し合い活動を取り入れ、多様な意見や考えを交流することで、重要な情報について考えられるようにしていく。</p>	<p>発個人の学習の成果を紹介したことで、より良い調べ方やまとめ方をしようとする児童が増えた。学学級全体で個人の考えや意見を伝え合うことで、考えを深めていく姿が多く見られた。</p>	<p>発情報過多で、適切にまとめられない児童に対しては、まずは課題の本質を一緒に考え、次にどんな情報を、どのようにまとめていくとよいかについて共に考えていくようにする。課課題を提示する際、理由や根拠も調べるように伝える。また、全体共有の場面で「なぜ」「どうして」と投げかけ、社会的現象等について考えていけるようにする。</p>	<p>発一緒に課題の本質を捉えることで、何を調べたらよいか理解して、学習を進められるようになった。課「なぜ」「どうして」と問い返すことで、社会的現象だけではなく、その原因まで考えられるようになってきた。</p>	<p>教児童が関心をもつ教材を精選し、めあてを明確にする。想像図から分かることを見つけさせることで、自分の考えをもてるようにする。学個人学習の後に、共有、確認、話し合いの時間をとり、視点や考えを広げられるようにする。</p>	<p>教教材や学習のねらいを明確にすることで、学習に見通しをもたせることができた。想像図や資料から情報を読み取らせ、整理させることで、自分の考えをもたせることができた。学個人で調べたことを、話し合ったり共有させたりすることで、より深い理解に</p>

						学習内容の情報を伝えることで、知識を深めたり、興味をもって取り組んだりしていた。						つなげることができた。
算数	<p>発分かっていることと問われていることに線を引いたり、音読させたりして、問題場面を捉えさせる。</p> <p>学話し合いの際に、ペアやグループなど段階を踏んで自分の考えを説明する機会を設けていく。</p>	<p>発たし算とひき算の時の問いの違いに着目して学習を進めることで、少しずつ問題場面を捉えることができるようになった。</p> <p>学ペアでの話し合いの機会を多く設けたことで、友達に話することに抵抗のある児童が減った。</p>	<p>発解くだけでなく、見直しをすることを繰り返し何度も声掛けする。</p> <p>学日常生活と関連させて、かさや時刻等の知識を身に付けさせていく。</p>	<p>発見直しをすることを繰り返し、何度も声掛けをし、ケアレスミスに気付くことができた児童が多かった。</p> <p>学日常生活と関連させて、かさや時計等の学習を行ったことで、知識が身に付いた児童が多くなった。</p>	<p>発問題を解き終わったあとに、必ず見直しをするよう声をかけ、丁寧に問題を解くことができるようにする。</p> <p>また、単位の書き忘れないように、授業内でもきちんと書くように指導する。</p> <p>教測定やデータの整理を確実にするために、一つ一つの数値を丁寧に読み取るよう声掛けをする。</p>	<p>発見直しの声掛けを続けてきた。</p> <p>テストでは、多くの児童が見直しをするようになり、単位の書き忘れや計算ミスなどが減ってきた。</p> <p>教声掛けを続けてきたことで、見直しを含め、児童が問題文やデータの読み取りなどの場面で丁寧に読み取るようになった。</p>	<p>課図形の学習では、ICTを活用することで、図形の構造が視覚的に分かるように教具を工夫する。また、その図形の特徴を全体で確認する。</p> <p>発単位の書き忘れがないように、授業内でも単位まで確認して書かせる。</p>	<p>課図形の学習では、ICTを使って、切ったり回したりしながら考えることができた。</p> <p>一方で、ICTが無いと求められない児童もいたため、問題数を増やし、継続して取り組ませた。</p> <p>発学級全体で解答や間違えやすい箇所を確認する時間を設けたことで、最後まで丁寧に確認して取り組む児童が増えた。</p>	<p>教間違えずに立式できるように、基にする数や比べられる数をはっきり見分けることや、数直線を活用できるように指導する。</p> <p>学なるべく多くの友達に、自分の考え(立式の根拠、数直線の数値の意味等)を伝え合えるように交流する時間を設ける。</p>	<p>教数直線を活用して立式できる児童が増えた。</p> <p>一方、まだ文章中から基にする数を見分けることが困難な児童もいるため、引き続き個別に支援していく。</p> <p>学交流する時間を設けたことで、自分の言葉で立式の根拠や数直線の意味を伝えられるようになった。</p>	<p>発既習事項と公式の関連を児童から引き出ししたり、教師が適切に教えたりすることで理解を深めさせる。また、単位の書き忘れないように、授業内でも省略せずに書かせる。</p>	<p>発児童が公式を覚えるのではなく、自分で導き出すことで、より深い理解につなげることができた。</p> <p>単位の書き忘れも少しずつ減ってきたが、まだ2割程度がたまに書き忘れるため、声掛けをしていく。</p>
理科					<p>発問題作りの場面や実験の結果から考察をする場面で、考え方を黒板に掲示し、児童が自分の力で考えることができるようにする。</p> <p>学問題に対して予想したり、実験・観察結果に対して考察したりしたことをグループで共有する時間を設けることで、問題発見能力や考察力を高めていく。</p>	<p>発問題作りや考察を書く機会を増やしたことで、児童も自分の力で文を考え書くことができるようになってきた。</p> <p>学グループで検討する時間を設けてきたことで、問題発見能力が少しずつ高まってきた。</p>	<p>教学習問題を設定し、解決のために予想、実験を行い、その結果をもとに考察する一連の問題解決の流れを明確にして定着させる。また、その流れを板書に整理して書くよう工夫する。</p>	<p>教問題解決の流れを整理して板書したことで、予想を立てて実験した後、根拠をもって結果や考察できた。</p>	<p>発授業時間以外にも、教師自身が植物の成長過程に興味をもち、児童に向けて話をしていく。また、興味関心を引き出せるよう、問いを工夫する。</p> <p>発全体で結果を共有し、結果の原因を問う。また、グループによって結果が違った際は、理由を考えていくことで、考察力を高める。</p>	<p>発植物や、ミョウバンの様子を進んで発信していくことで、児童が興味を示すようになった。</p> <p>発グループによる実験結果の違いを聞いたことで、実験方法の仕方や、結果のまとめ方に気を付けるようになった。また、原因を究明しようとする姿勢や、考</p>	<p>発実験結果から「そこから分かること」として問題の一般化を図る(『つまり～』)ことは～)ことで、結論まで繋がられるようにする。</p> <p>学グループで実験を行い、実験のまとめ(結論)を考えられるようにする。全体の場でも発表の時間を確保し、よりよいまとめの形を模索していけるようにする。</p>	<p>発半分以上の児童が、文章作りを基に結果から結論まで繋げ、まとめていくことができた。</p> <p>学グループで協力して結論のまとめを考えることができた。全体の場で発表することで、全体で結論の共有をすることができた。</p>

										察する力が高まった。		
生活	<p>【学】観察カードをお互いに見合ったり、発表したりする中で、感想の書き方や表し方を共有する時間をつくる。</p>	<p>【学】観察カードの書き方を示したり、友達のよい書き方を紹介したりすることで、観察カードの書き方が定着した。</p>	<p>【学】他教科と関連させ新しい視点を学んだり、友達のカードを見てよい視点を見付けたりして、次の単元に生かせるようにする。</p>	<p>【学】友達と書いたカードを共有する時間を設けたことで、よい視点をみつけることができた児童が多かった。</p>								
音楽	<p>【教】常時活動で、即興的な活動に慣れさせる。音楽づくりの活動が主となる題材では、段階を踏んで取り組み、自分で考え表現する活動に進めるようにする。</p>	<p>【教】音楽づくりの題材では、誰でも簡単にできる活動を積み重ねたことにより、自由な発想で活動できるようになった。</p>	<p>【学】器楽活動の題材において、ペア学習やグループ学習を取り入れ、互いの音を聴いて演奏し、認め合う機会をつくる。</p>	<p>【学】ペア学習で十分に活動してから、グループ、全体へと段階を踏んで取り組み、友達の演奏に耳を傾ける態度が身に付いた。また、協力して進めていくことで、目標を達成でき、自信をもつことができた。</p>	<p>【発】活動だけで授業が進まないよう、目標を掲示し、児童が意識的に表現できるようにする。</p> <p>【学】友達の演奏を聴く場合、座席の配置を工夫したり、集中できる環境をつくったりする。</p>	<p>【発】目標を掲示することで、声の出し方や音の出し方を工夫できるようになった。特に、リコーダーの楽曲では前奏の雰囲気を感じ取り、曲想に合う音色で演奏することができた。</p> <p>【学】座席の配置を工夫したり、リレーで演奏する活動を取り入れたことで、友達の演奏に耳を傾ける習慣がついた。</p>	<p>【課】技能をともなう活動では、児童の実態に合わせて、毎時間達成できる課題を設定する。</p> <p>【学】児童同士が協力して進めていく活動では、目標を児童が理解したことを確認してから進める。</p>	<p>【課】リコーダーの運指が難しい楽曲については、スモールステップで取り組み、自信をもたせながら活動することができた。</p> <p>【学】ボディパーカッションの活動を通して、「協力する」という目標をこまめに確認したことで、互いにアドバイスしながら協力して取り組むことができた。</p>	<p>【発】曲想を表す言葉を掲示する場所を設ける。またどの活動でも楽曲を聴いた後は、どんな言葉に表すことができるか発問し、言葉の語彙を増やす。</p> <p>【教】鑑賞活動では、自分の聴きたい箇所を自由に聴けるよう1人1台端末を活用する。</p>	<p>【発】鑑賞活動では、楽曲に当てはまる言葉を提示しその言葉を使って聴き取ったことを文章にまとめることができるようになった。語彙は、まだ少ないので今後も継続していく。</p> <p>【教】1人1台端末を活用することにより、それぞれ聴きたい部分を繰り返し聴き、楽曲の特徴を詳しく聴き取ることができた。</p>	<p>【課】器楽活動では、様々な楽器を体験してから、楽器を選択できるように、最初に簡単なフレーズを複数の楽器で演奏する課題を設定する。</p> <p>【発】選択した楽器を目標をもって取り組めるよう、奏法について個別に助言する。</p>	<p>【課】教科書に記載されている楽曲の活動では、固定することなく様々な楽器を体験することができた。</p> <p>【発】合奏の個別練習の時に、リズムを確認しながら運指や息の使い方、音の出し方を個別に助言したことで、技能面を伸ばすことができた。</p>

<p>図工</p>	<p>発 道具の準備や片付けの仕方が理解できるようにこまめに声を掛ける。</p>	<p>発 絵を描き終わると、作品を乾燥棚において片付け始めるといふ流れを多くの児童は理解し、進めることができた。皆が片付けた後の廊下の汚れを、進んで雑巾がけしてくれる児童もいた。道具を使う単元全般に準備から片付けまで、スムーズにできるようになってきた。</p>	<p>学 ペアやグループ交流を取り入れて、お互いの作品に触れる機会をつくる。思いついたことや感じたことを話したり、発想を広げる場をつくったりする。</p>	<p>学 自分が作ったキャラクターがこの世界から来たのか、簡単な物語を作って、ペアで伝え合う学習を行ったことで、児童同士が活発に紹介し合うことができた。友達の作品を鑑賞している児童がほとんどだった。</p>	<p>発 一人一人の表現や工夫を具体的に何が良いのか伝え、自分の良いところを認識させる。表現の違いがあつて当然であり、どんな表現も尊重される安全な場所であることを伝えていく。</p>	<p>発 図工に苦手意識があり、関係のないものに興味・関心がいつてしまふ児童に対して、作品の良さや具体的な進め方を助言したところ、着席して制作するようになった。</p>	<p>教 どの児童も期待感をもち、楽しめ、深められる教材を用意する。 課 児童一人一人に合わせてあてに向かつて、スモールステップで進められるよう課題を示す。</p>	<p>教 水彩画、陶芸、ローラー絵画、木版画、木工等、道具の使用の幅が広がったことにより、様々な題材を扱えるようになった。安全指導を徹底して全員が道具を使えるように指導できた。 課 一人一人に合わせて進め方で各自自分の課題を解決できた。</p>	<p>学 使う道具や材料に合わせて学習形態を変えて、誰もが楽しめるような図工室ならではの空間を作る。</p>	<p>学 タブレットを使った学習や、ワイヤー制作、回転版画等、教材やねらいに即して学習形態を工夫したことで、自分に近い表現の児童同士が互いに影響し合つて学習できていた。</p>	<p>教 児童が既習事項を生かし、扱いたくなるような材料や表現方法を用意する。 発 図工と関係ないことをしたり、集中できない児童にはよく話を聴き取り、発想の転換を促す。</p>	<p>教 既習事項を生かし、作品のモチーフに自分の思い入れのあるものを描いたり、作つたり表現できていた。 発 ほとんどの児童は授業中のルールを守れている。集中できない児童は、具体的に次に何をしたらよいか助言すると、取り組むようになった。</p>
<p>家庭</p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p>教 引き続き学習意欲を高められるよう、教材の工夫をしていく。 学 集中力を高められるように、作業の時間と説明の時間の区切りをしっかりとつけていく。</p>	<p>教 調理の経験は児童によって違いがあるが、本人の力に合わせて実施した。ほとんどの児童は楽しみながら取り組んでいた。何よりも家族が喜んでくれる様子を児童も感じ取り、やる気につながった。</p>	<p>発 児童の実際の生活につなげる授業展開を行うことで、児童の関心をより深めさせる。 教 座学の授業において、実際の道具や材料等の提示、数値の計測の実施等、児童が関心を引く工夫をしていく。</p>	<p>発 ほとんどの児童が積極的に活動に取り組み、調理実習や作品作りに取り組んでいた。 教 課題に関心をもち取り組む児童が増え、自分でもいろいろ工夫を考える児童が増えた。</p>
<p>体育</p>	<p>学 勝ち負けだけではなく、友達の良かった動きなどを振り返る場面を設定し、楽しく工夫して運動する良さを価値付けていく。 教 安全な場の設定の仕方を指導し、友達と協力して場の設定ができるようにする。</p>	<p>学 友達の良かった動きなどを振り返る場面を設定したことで、より楽しく活動する姿が見られた。勝敗にこだわらずに視覚と聴覚に訴えかける方法で学習内容を伝える。</p>	<p>教 安全な場の設定の仕方を指導したことで、友達と協力して場の設定ができた児童が多かった。 発 学習の最初に必要なことをするのか全体の見通しをもてるように視覚と聴覚に訴えかける方法で学習内容を伝える。</p>	<p>教 安全な場の設定の仕方を指導したことで、友達と協力して場の設定ができた児童が多かった。 発 学習の最初に必要なことをするのか、ホワイトボード等を用いて、視覚と聴</p>	<p>教 意欲的に取り組むことができない児童も、運動を楽しむことができるように、児童と共に考えながら、内容を決めていく。 学 勝ち負けがある運動については、チームで統一をする場面を設け、仲間と協力して取り組むことができる</p>	<p>教 意欲的に取り組むことのできない児童に対してもスモールステップで運動をしていったことで、成功体験が増えてきて、多くの場面で運動に参加できるようになってきた。</p>	<p>発 学習のはじめに、学習内容をしっかりと伝え、見通しをもてるようにする。 学 勝敗があるものについては、悔しい気持ちも認めつつ、改善策を考えられるような発問をする。また、チームでめあてを立てさせて、めあてに向か</p>	<p>発 児童にとって魅力的で、取り組んでみたいと思えるように、ルールを自分達で付け加えていった。そのことで、みんなが楽しめるルールになり、見通しをもって、主体的に学習に取り</p>	<p>発 積極的に取り組めない児童に対しては、友達と体を動かす楽しさや、できた喜びを味わわせられるよう、児童にとって魅力的な活動を展開したり、スモールステップの場を設定したりしていく。 発 課題解決が図れな</p>	<p>発 児童にとって魅力的で安心して取り組める場を設定したり、スモールステップの練習方法を示したりしたことで、進んで取り組めるようになった。</p>	<p>学 チームで話し合う時間を実態に応じて長めに設定したり、やってみることを大切にしたりするように声掛けをする。 発・教 運動特性に応じたポイントを伝え合えるように、児童の姿を取り上げながら運動のコツを考える視点を示</p>	<p>学 チームで話し合う時間を設定したことで、自然と話し合ったり声を掛け合ったりする姿が見られた。 発・教 学習の途中で動画を活用したり、児童の気づきや考えを</p>

	る。	教安全に気を付けて場を設定する態度を身に付けさせることができた。友達と協力する姿勢を身に付けさせることができた。		覚に訴えかけることで、全体の見通しをもって授業に参加している姿が見られた。	ようにする。また、ルールの共通理解を図り、相互審判でゲームを行うことで、ルールを守りながら運動を楽しむことができるようになる。	学作戦を立てる時間を設けたり、いい声掛けを価値づけたりしてきたことで、勝ち負けだけにこだわらず、チームで協力して運動することができる児童が増えた。	て仲間と協力することや、達成させることの楽しさを感じられるようにする。	組む姿が見られた。学勝敗があることによって、どうしたら勝てるのかを考えている姿が見られた。自然とめあてを立てることに繋がっていた。	い児童に対しては、「どうなりたいか」、「どうしたいか」を考えさせ、目標とともに主体性を引き出し、取り組めるようにしている。	発常にめあてをもたせ、そこに向けて何ができるかを一緒に考えてきたことで、少しずつ主体性をもって、取り組めるようになってきた。	す。	共有したりすることで、視点を広げさせることができた。
道徳	発道徳の学習を日常生活に活用できるように、児童の実生活に関わる身近な発問を準備する。 学教材の内容や道徳的価値について自分で考える時間、友達との対話をする時間を設けた上で、再度自分だったらという視点で考える活動(自己内対話)を設定し、より自分との関わりで価値を捉えていけるようにする。	発児童の実生活に関わる発問をすることで、児童が実生活を振り返って考える姿が多く見られた。 学自分で考える時間を十分に確保してから、話し合いを行い、いろいろな意見に触れさせた。その後、振り返りの時間を設けたことで、自己内対話をしながらワークシートに取り組むことができた。	発道徳の学習を日常生活に生かすことができるように、児童の実生活に関わる身近な発問を準備する。 学自分ならという視点で考える活動を行うことで自分を振り返る(自己内対話)時間を確保し、自身との関わりの中でそれぞれの価値を捉えていけるようにする。	発児童の実生活に関わる身近な発問を準備したことで、道徳の学習を日常生活に生かすことができるようになった児童が多かった。 学自分ならという視点で考える活動を行うことや自分を振り返る(自己内対話)時間を確保したことで、それぞれの価値を捉えていけるようになってきた。	発自分だったらどうするかという視点や、今後の自分の生活でどのようなことを意識して生活していきたいかということを考えさせる。 学自分の生活を振り返る時間を作ることで自己内対話を行う機会を設ける。 自分の考えを生かせるようにするためにグループで交流する場面を設定し、考えを広げることができるようにする。	発自分ならどうするかという視点や経験からどう感じるのかを発問し、児童の意見を板書することで様々な視点で考えようとする児童が多かった。 学グループで交流することで様々な意見が出ていた。自分と違う意見があっても受け入れたり認め合ったりする姿が見られるようになった。	発自分ならという視点で問題を考えさせる。補助発問や問い返しを行うことで、考えをより深めさせる。 学個別で考えをまとめる時間をとることで、自己内対話を行う場を作る。全体発表だけでなく、小規模での話し合いの時間を設定し、段階的に話し合えるようにする。	発自分に置き換えて考える活動をしたことで、より具体的に自分の生き方について振り返ることができていた。 学小規模での交流を入れてから、全体での共有を行うことで、自分の考えを進んで発表できるようになった。	発普通の生活と結び付けられるように、導入とまとめの段階で自分の経験を伝え合う場を設ける。 学ワークシートに自分の考えを書く時間を多く設けることで、活動を通して自己内対話ができるようにする。	発自分の経験を伝え合う場を設けたことで、今後の自分の生活に結び付けようとしている児童が多かった。 学自分で考える時間の後、友達と交流する時間を設定したことで、様々な考えに触れられたとともに、自分の考えを深めることができていた。	発登場人物の心情をよく考え、「自分も～」「自分なら～」という自我関与への展開をつくることで、自分自身のこととして考えられる場を設ける。 学個別で考え自己内対話を促す時間、グループや全体の場で意見を交流させる時間をそれぞれ十分に確保することで、自らの考えをより深めていけるようにする。	発問題に対して形式的な答えではなく、より自身に沿った考えをもったり発表したりすることができた。ほとんどの児童が自分の考えをノートに書くことができた。 学徐々に意見交流をスムーズに行うことができるようになった。授業中、他の児童の考えと照らし合わせたりつなげたりすることで、さらに考えを深めようとする児童が増えた。
外国語									学センテンスや語彙を獲得できるように、チャンツだけではなく、ALTと一緒に発話する時間を取ったり、ゲームを設定し、その中で楽しみながら伝えられるようにする。	学ゲームのルールにセンテンスや語彙を使うように設定したことで、児童は楽しみながら、必要な語句を獲得できた。	発発表する際に、順番や方法を工夫して、児童の抵抗感を減らせるようにする。書く時には、4線を毎時間意識させるように声掛け、指導する。	発児童の実態を考えながら、発表の仕方をグループ→全体の順番にすることで、抵抗感を減らすことができた。4線にアルフ

